

美 茶 人

be a **GOOD** neighbor !

April
2022
vol.

11

みそのびと



vol.

11

美園人

be a GOOD neighbor!

CONTENTS

SPECIAL — “美園人”の今をお届け —

- 03 「しょうがのむし」
代表 周東孝一
- 04 「美園ファーマーズ倶楽部(MFC)」
高田靖子 小林規男 関根隆文
- 05 「カフェジャルディーノ」
シェフ 門平光正 農家 森田剛史

SPECIAL — “美園人”が顔を出す —

- 06 「美園人」×「みそのいち」
「美園人」×「水曜日の雑談カイギ」

be a GOOD neighbor! — “美園人”サポーター特集 —

- 07 埼玉花図鑑 季節を彩る花々



発酵ジンジャーエールで、 美園から世界を見据える

さいたま市が主催する「世界を変える起業家」ビジコン in さいたま2019にてグランプリを受賞し、国内初の発酵ジンジャーエール専門の醸造会社「(株)しょうがのむし」を設立した、周東さん。

浦和美園駅から車で15分の場所に醸造所を構え、見沼田んぼ再興・フードロス対策・和服廃棄の対策など多岐にわたる取り組みを行っています。それらの取り組みは全て、発酵ジンジャーエール醸造からつながる1つの物語となっています。



「株式会社しょうがのむし」
代表 周東孝一

試行錯誤の結果が、フードロス対策に

周東さんの手がける発酵ジンジャーエールは、素材に一切妥協しないことから、どうしても高くなってしまいう原価を抑える事が課題でした。そこで、原材料のひとつである、パイナップルを加工する工場に目を付けました。

「カットパインを製造するその工場では、かなり厚めに皮を切り落としていました。その皮からでもたっぷり果汁が取れるため、それをいただくことができれば原価率を下げる可以做到。」

交渉を重ねた結果、元々コストをかけて廃棄されていた皮が、今では原材料として活用されています。また、規格外のために廃棄される大量の野菜の存在も知り、子ども食堂への寄付や食べられないものを堆肥にするといった仕組みにし、実際に運用されています。

廃棄される和服と発酵ジンジャーエール

ちょんまげ姿の周東さんの正装は和服。その和服は売れ残ると大量に破棄されているという現実を知ります。そしてそれを、少しでも再利用出来ないかと考えました。

「オンライン販売で商品を配送する際、瓶が割れないように緩衝材が必要です。その緩衝材として、着物の生地を利用することを考えました。梱包を解いたときに色とりどりの生地が見えたら、それだけで嬉しい気持ちになってもらえると思います。さらに、近くに社会福祉法人が運営する施設がありましたので、梱包作業をお願いし、仕事を提供できればと。」

こうしたアイデアを行動に移し、今では様々な種類の発酵ジンジャーエールが世に出されています。

「人口の流出や、耕作放棄地の増加といった地域課題の解決には、道徳や郷土愛に訴えるだけでなく、より現実的な方策を実践していくことが大切」と周東さんは言います。美園で始まった、発酵ジンジャーエールの今後の展開が、全国の地域課題解決のヒントになるかもしれません。



廃棄されていた野菜や果物が、ジンジャーエールの原料、そして畑の堆肥作りにも使用される



定番品も限定品も、こだわりが詰まっている

しょうがのむし

公式ストアはこちら





美園ファーマーズ倶楽部 (MFC)

左から小林規男さん、高田靖子さん、関根隆文さん

体験農業から続く、 社会課題解決への未来

見沼田んぼを主として、体験農業を提供している美園ファーマーズ倶楽部。ビジョンinさいたま2020では、審査員特別賞や複数の協賛団体賞を受賞しました。

活動は、代表の高田靖子さんが、ご両親の介護経験を通じて野菜の力を実感し、活動の仲間を集めたことに始まります。コミュニティ内で繋がりのあった小林規男さんと、休耕地となっている祖父の畑に問題意識を抱えていた関根隆文さん。3人で思い描く、体験農業の今後のビジョンとは。

成功と失敗から、喜びと学びを得る

今は事業展開でいうと第1フェーズ。「まずは体験農業の形で、多くの人に農業を知ってもらい、人と人をつなぐコミュニティとなることを目指しています。」代表の高田さんは、人材教育やポジティブ心理学に携わる研究者。体験農業を子育てに活かしたり、成長する楽しさや喜びを体験してもらうことも意識されています。

「MFCでは、参加する人になるべく主体的に関わってもらおうと思っています。私たちスタッフも一緒に考え、失敗から『なぜこうなるのか?』を考えながらやっていきたいですね」と小林さん。

体験農業の希望者と、農家さんをマッチング

関根さんを中心に進めているプロジェクト、「Paprika (パプリカ)」。「それは“体験農業をしてみたい人と、農家さんとのマッチングサービス”です。人手不足や高齢化で農作物をとりきれない現状がある一方、畑で収穫体験をしてみたい一般の人も多い。その両者をマッチングさせるプラットフォームが、2022年1月にリリースされました。

「収穫体験したい人をその時期に募集し、作業をしてもらう。農家さんは作物を無駄にせず、体験した人は新鮮なお野菜を持ち帰れる。双方ともハッピーになれるサービスを目指しています。」

小林さんは、そこから続く新たな可能性も見据えています。「土いじりをするでセロトニンなど、脳の幸せホルモンが分泌されます。そういった体験者のデータを蓄積し、将来の社会課題を解決するための投資としても続けていけたらいいですね。」

体験農業から続いていく、様々な社会課題解決への未来。とはいえ気軽に、まずは土いじりに行ってみませんか。



レストハウスとしての拠点 (Mハウス) では、多くの交流を生み出している



美園の広い空の下、開放的な体験農業が開催されている

美園ファーマーズ倶楽部

公式サイトはこちら





それぞれの想いが繋がり、食文化を育む

美園に新たにオープンした「カフェジャルディーノ」。本格的な薪窯で焼き上げるナポリピッツァや、地元で採れたヨーロッパ野菜を使った料理など、ここでしか出会えない味を求めて多くのファンが訪れています。

イタリア料理に魅せられた同店シェフの門平光正さんと、ヨーロッパ野菜を生産する地元農家の森田剛史さんにお店やヨーロッパ野菜へのこだわり、美園への想いを伺いました。

「カフェジャルディーノ」

左から地元農家の森田剛史さん シェフ門平光正さん

農家とシェフの出会いからお店のオープンまで

きっかけは、代々農家を続けていた森田さんが、お店を運営する会社の社長から「本場の野菜を提供したいので、ヨーロッパ野菜を作ってくれませんか？」とお誘いをいただいたことでした。

「当初は知識が無かったので、名前も聞いたことが無ければ、どのタイミングで収穫したら良いのかもわかりませんでした。」本場の野菜を知るシェフ達に話を聞きながら試行錯誤する中で、門平シェフとも出会い、今ではたくさんの野菜が使用されています。

「食育といった部分も含めて、幅広い年齢層の方に楽しんでいただけるようなお店づくりも工夫しました。」と門平さん。

店内にはヨーロッパ野菜の販売コーナーもあり、実際に料理を食べた後に購入することも可能です。もちろん、野菜の購入だけでも訪れることができます。

農業と料理、それぞれの想いが繋がる

「農業はその土地に根付く職業ですので、郷土愛を醸成しようと活動している「さいたまヨーロッパ野菜研究会」の一員としても、ヨーロッパ野菜を食文化として定着させることを目標にしています」と話す森田さん。

門平さんはその想いに応えるように語ります。「野菜を作ってくれる森田さんの顔はお客様に伝わらないのですが、料理を通して、そのこだわりや気持ちが伝えられればと思っています。畑からできたものを僕らが料理という形にしてお客様に伝える。それでみんな喜んで幸せになっていただければ、僕自身も幸せです。」

既にさいたま市内の小学校給食でもおなじみのヨーロッパ野菜。「新しいまちだからこそ、食文化もこれから育っていくでしょう」と話す門平さん。美園で育まれる、新たな食文化。ぜひその一つを「カフェジャルディーノ」で試してみたいかがでしょうか。



新鮮なヨーロッパ野菜たちが並び、店内の販売コーナー



農家さんの想いが、確かな技術で繋がれ美味しい一品に

カフェジャルディーノ

住所：さいたま市岩槻区
美園東2-1-2

twitterアカウントはこちら



美園を舞台に行われている、さまざまな取り組み。皆さんはどこまで知っていますか？
ここでは“美園人編集部”として参加したものをはじめ、その一部をご紹介します。
美園での取り組みを知り、ぜひまたの機会でご一緒しましょう！

【水曜日の雑談カイギ】におじゃましました！

水曜日の晩の月イチ開催を基本パターンに、その時々“雑談テーマ”をもとに美園を語る交流会【水曜日の雑談カイギ】。

第11回目の雑談テーマ「地域とメディア／『美園人』のこれから」として、美園人編集部もお題提供させていただき、『美園ならではの“五感”を生かした取り組みについて』みなさんとざっくばらんにアイデア出しをしました！

以前は“オンサイト”での対面交流会で開催されていましたが、現在は感染リスクを避けた“オンライン”での開催が続いています。ぜひ皆さんもお気軽にご参加ください！



UDCMi公式サイト
詳しくはこちら



「みそのいち」におじゃましました！

10月24日（日）に開催された「みそのいち」に『美園人』もブース出展しました！

「美園コミュニティセンター」前のスペースにて、冊子Vol.10の配布とともに、多くの方と交流。さいたま市外から来られている方も多く、「みそのいち」と同日開催された「美園マ・マルシェ」、それぞれのリアルなにぎわいを実感する1日となりました。

もちろん、安くて新鮮な野菜もたくさんゲット！見慣れない野菜でも、おすすめの調理方法を教えてもらえる、フレンドリーな距離感も「みそのいち」ならではの楽しみの一つですね。

ACTIVITIES — 美園の取り組み —



美園マ・マルシェ（10月24日（日）開催）

ママクリエイターが集まり開催される「美園マ・マルシェ」は、個性あふれる多彩なブースが魅力！

劇団員によるお芝居を見れることもありますよ！

埼玉スタジアム花図鑑



2月

俯き加減も愛らしい、「水仙」



3月

埼玉スタジアムのコンドラスドが美しい、「河津桜」



4月

鮮やかな色合いの「藤」



7月

子どもたちのメッセージ付き、「朝顔」



4月

散った花びらも絵になる「桜」



美園人サポーター 小谷さん

大のランニング好きの小谷さん。その軽快なフットワークを活かして、美園のあちこちを素敵な記事にしてくれています！

今回は、埼玉スタジアム周辺で季節をしらせてくれる、多彩な花々をピックアップした「埼玉スタジアム花図鑑」シリーズから抜粋！

「地域サポーター」応募はこちら



まちの過去・現在・未来を伝える「美園初・美園発」のローカルメディア『美園人』では、地域サポーターを募集しています。

記事作成を通して、美園の魅力伝えたい！写真を『美園人』に掲載して欲しい！美園在住だからその情報を共有したい！など、サポーターとしての関わり方はさまざま。ぜひお気軽にお声をお寄せください。



応募・問い合わせフォーム

美園花火

(11月3日(水・祝)開催)



例年の「浦和美園まつり&花火大会」が待ち遠しいですね。

「ソーシャルディスタンス美園花火」として開催されました。

会場周辺おそうじ志隊！

(11月4日(木)開催)



空中で散った花火の燃えカスを宝探しのように集めます。

「美園花火」の翌日は、会場周辺をお掃除！



× みその出版

UDCMi とは

「アーバンデザインセンターみその（略称：UDCMi）」は、さいたま市美園地区において、次世代のまちづくり方策の構想・実践に向けて、本地区で活動する多様な個人・組織等が協働・連携しながら、地域課題解決に取り組むためのまちづくり拠点施設です。2015年10月に埼玉高速鉄道線「浦和美園駅」西口に開設されました。

快適な都市環境の実現・維持、生活利便性の向上、地域コミュニティの活性化など、新たなまちづくりプロジェクトが、ここUDCMiを拠点に行われています。

『美園人（みそのびと）』とは

2001（平成13）年に開業した浦和美園駅を中心とした都市開発の進む「美園」。

そんな「美園」の魅力を分かち合いながら、地域への愛着、そして人とのつながりを育む事を目指し、ローカルメディア『美園人』のWebサイトおよび冊子による発信に取り組んでいます。

「美園」のまちに集う人、暮らす人。その営みを互いに支えあうこと、分かちあうこと。みんなが「良き隣人」どうしてあり続けられるよう、『美園人』は応援していきます。

『美園人』はwebでもご覧いただけます。

Web版では、冊子でご紹介しきれなかった取材記事や、「美園」でこれから行われるイベント情報などをご覧いただくことができます。最新の情報はぜひこちらから。

